



ワールドチャンピオンも夢じゃない

松井汰月くん

PROFILE まつい たつき(6・薄原区)
5歳の時からBMX(バイシクルモトクロス)に乗り始め、1年足らずで全日本選手権へ出場。目標は世界選手権で優勝すること。白羽小1年。

今年9月に埼玉県秩父市で行われた全日本BMX連盟主催のBMXシリーズ第6戦年齢別レース(男子5・6歳の部)で見事優勝し、表彰台の一番上に立った松井汰月くん。本格的に競技を始めて、まだ1年にも満たないというから驚かされる。

BMX(バイシクルモトクロス)レースは、1970年代にアメリカで始まった自転車競技で、今では、オリンピックの正式種目にもなっている。日本では馴染みが薄い

が、世界的にはメジャーなスポーツだ。スタートヒルと呼ばれるスタート台から一斉にスタートし、コースの途中に設けられた形状の異なる大小のジャンプ台など数々の障害物をクリアしながら全長400メートルほどのコースを専用自転車

で走り抜ける迫力満点の競技だ。汰月くんがBMXに乗り始めたきっかけは、静岡市に住むいとこが公園内のコースをBMXで走る姿を見て、自分もやってみようと思ったからだ。自ら走ってみると、その楽しさは今までにないもの

だった。父親の孝通さんも、BMXに興味を示す息子の背中を後押しした。昨年の12月にBMXを買い与えると、週末には一緒に県外まで出かけて、時には朝から晩まで練習することもあったという。

天性のバランス感覚と運動センスで一気に同年代のトップライダーとなった汰月くん。レースに負けると悔しくて泣くこともあるというから負けん気も人一倍強い。

世界選手権への出場をかけた臨んだ先月28日の全日本選手権。結果は、惜しくも準優勝で世界選手権出場への夢は叶わなかった。

「知らない人が大勢いる中でも憶さず、物おじしない子になってほしい」と願う孝通さんと、「世界中の子どもたちと戦って勝ちたい」と張り切る汰月くんの挑戦は、これからも続く。

